

## 「時が来た。立て、行こう。」 (2023. 11. 19)

「時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。」

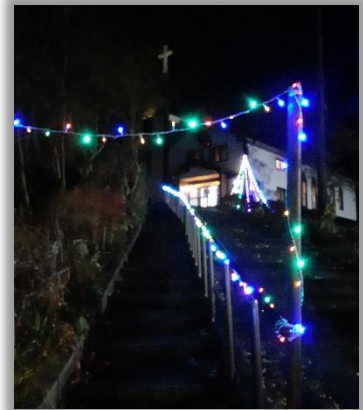
立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」(マルコ 14:41~42)

上掲の御言葉は、ゲッセマネの祈りを終えて、いよいよ十字架に向かう決意を固められたイエス様の御言葉です。そして弟子たちにも勧めます。「時が来た。立て、行こう。」コヘレトの言葉が浮かんできます。「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」(3:1)

11月12日、障がい者週間にちなみ、長谷川恵子姉に、障がい児を背負う歩みの中で与えられた主の恵みを証していただきました。奨励題は「時が来ました」でした。この題からは長谷川姉のこれまでのご苦労と今与えられている希望が痛いほど伝わってきます。今、長谷川姉は聖霊のダイナミックな働きのもととされています。東松島市の野蒜ヶ丘がさらに祝福されますように。

9月24日、丹波望先生には、能代の地で「地域の牧師とならん」と志し、89歳の今に至るまでの主の恵みの一端を証していただきました。地の塩塾、能代文化学院、秋田しらかみ看護学院などの学院長・理事長を歴任し、現在も秋田第9条の会代表委員を担われ、現在、さきがけ新聞に「時代を語る」として特集記事が載っています。まさに「時が来た」ということでしょう。

つい先ほど(11/17, 午前10時)N姉より電話を戴きました。「S先生がみんなに話して、みんなもやりたい!とのことでした。」来年の2月15日のミニかまくら演奏会の事です。合唱団四季にオファーを出していたのです。ハレルヤ! 12月24日のイブ礼拝ではすでに成田徹氏にサクソフォン演奏の承諾を得て、チラシ作成に入っています。コロナ過だからということで、これまで教会は内に目を向け、力を蓄えよう、と数年歩んできました。警戒は継続しなければなりません。コロナは5類扱いとなり、いよいよ「時が来た」と思います。



私の心に主の御声が響いてきます。「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。」(イザヤ 41:10)「恐れることはない」とは「安心しなさい」ということ。「たじろぐな」とは「勇気を出しなさい」ということ。なぜなら、昨日も

今日も永遠に変わる事のないイエス様が、今ここに共にいて、助け、支えて下さるから。安心して、勇気を出して、11月、12月の日々を歩みましょう。